

かんぐんゆう し はか 官軍勇士の墓

- ◇ 指定日 昭和54年7月24日
- ◇ 所在地 中里団地
- ◇ 所有者 個人

この墓所には、宮古港海戦における新政府軍の戦死者4人が埋葬されています。墓碑は1基で、正面に4人全員の戒名が彫られ、左右にはそれぞれ2人ずつの出身地・俗名・年齢が彫り付けられています。

新政府軍は、鯨ヶ崎港に出役していた盛岡藩の役人に対して、戦死者6人の内、4人の埋葬を依頼しました。それを受けて、盛岡藩では、宮古村（当時）の常安寺に戦死者の遺体を送り、埋葬を取り計らわせました。埋葬された4人の出身地・身分はそれぞれ異なっています。

「堅道永忠禅居士」は長州藩の梅田梅之允正行（墓碑では梅之丞）、22歳。「閣倫仙勇禅居士」は阿波の六助、56歳。「廓心義要禅居士」は同じく阿波の甚吉、47歳。「普嶽徳明禅居士」も同じく阿波の銀次郎（墓碑では銀治郎）、36歳となっています。昭和57年の墓碑改修工事では、墓の一部から2体分の遺骨と副葬品があったことが確認されています。

